



感染症			主 な 症 状	感染経路	潜伏期間	出席停止期間	
第一種	急性灰白髄炎（ポリオ）		かぜ症状・胃腸症状	経口・接触	3～21日	医師が感染のおそれがないと認めるまで	
	ジフテリア		発熱・咽頭痛・頭痛・倦怠感	飛沫	主に2～7日		
	重症急性呼吸器症候群(SARS)		高熱・咳息切れ・呼吸器の症状	飛沫・接触	主に2～7日		
	鳥インフルエンザ(H5N1)		高熱・急性呼吸器症状・頻呼吸	飛沫・接触	主に2～8日		
第二種	インフルエンザ		高熱・頭痛・悪寒・筋肉痛・全身倦怠感 のどの痛み・鼻水・鼻づまり	飛沫・接触	平均2日 （1～4日）	発症した後5日を経過し、かつ、解熱後 2日を経過するまで	
	新型コロナウイルス感染症		発熱・咳・全身倦怠感等の感冒様症状・頭痛・下痢・結膜炎・嗅覚障害・味覚障害等	飛沫	主に2～3日	発症した後5日を経過し、かつ症状が軽快した後1日を経過するまで	
	百日咳		がんこで激しい咳（特に夜） 発熱は少ない	飛沫・接触	5～21日	特有の咳が消失するまで。または、5日間の適切な抗菌薬療法が終了するまで	
	麻疹（はしか）		発熱・咳・鼻水などの風邪様症状・発疹 コプリック斑（頬の内側にできる斑点）	空気・飛沫 接触	主に8～12日 （7～18日）	解熱後3日を経過するまで	
	風疹（三日ばしか）		淡紅色の発疹・発熱・頸部リンパ節の腫れ	飛沫・接触	主に16～18日 （14～23日）	発疹が消失するまで	
	流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）		発熱・耳の下からあごにかけての腫れと痛み	飛沫・接触	主に16～18日 （12～25日）	耳下腺、顎下腺または、舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで	
	水痘（みずぼうそう）		発熱（軽～中程度） 発疹→水疱→かさぶた	空気・飛沫 接触	主に14～16日	全ての発疹がかさぶたになるまで	
	咽頭結膜熱		高熱・のどの痛み・頭痛・食欲不振・目やに・涙・耳前リンパ節の腫れと痛み・結膜の充血	飛沫・接触	2～14日	発熱、咽頭炎、結膜炎などの主要症状が消退した後2日を経過するまで	
	結核		初期結核の症状・発熱・咳・疲れやすい 食欲不振・顔色が悪い	空気	2年以内 特に6ヶ月以内	医師が感染のおそれがないと認めるまで	
髄膜炎菌性髄膜炎		高熱・頭痛・発疹・吐き気・関節炎	飛沫・接触	主に4日以内 （1～10日）			
第三種	腸管出血性大腸菌感染症（O157など）		激しい腹痛・水様便・血便	経口・接触	10時間～6日	医師が感染のおそれがないと認めるまで	
	流行性角結膜炎		目やに・結膜の充血・まぶたの腫れ・異物感	接触	2～14日以上		
	急性出血性結膜炎		結膜出血・結膜充血・まぶたの腫脹・異物感・流涙・めやに・角膜びらんなど	接触	平均24時間		
その他の感染症	溶連菌感染症	猩紅熱	発熱・のどの痛み 舌がイチゴ状に腫れる・全身に発疹	飛沫・接触	2～5日	医師の診断に従ってください （条件によっては出席停止の措置が必要と考えられる）	
		上気道感染症	発熱・のどの腫れや痛み・咽頭扁桃の腫脹や化膿・頸部リンパ節炎				
	手足口病		発熱と口腔・咽頭粘膜に痛みを伴う水疱ができ、唾液が増え、手足末端、肘、膝、お尻などに水疱が見られる	飛沫・接触 経口	3～6日		
	伝染性紅斑（りんご病）		かぜ様症状・顔面の紅潮	飛沫	4～21日		
	ヘルパンギーナ		発熱・のどの痛み のど・口の中に発疹→水疱→潰瘍	飛沫・接触 経口	3～6日		
	マイコプラズマ感染症		咳、発熱、頭痛などのかぜ症状がゆっくりと進行し、特に咳は徐々に激しくなる	飛沫・接触	主に2～3週間 （1～4週間）		
	感染性胃腸炎		嘔吐・下痢・発熱 ロタウイルス感染症にかかった乳幼児は、時に下痢便が白くなることもある	飛沫・接触 経口	ノロウイルス 12～24時間 ロタウイルス 1～3日		
	アタマジラミ		一般に無症状であるが、吸血部位にかゆみを訴えることがある	接触	産卵からふ化までは10日～14日、成虫までは2週間		医師の診断に従ってください （通常出席停止の必要はありません）
	伝染性軟属腫（水いぼ）		体幹や四肢にいぼができる。数個散在する場合や広い範囲にわたって多発する場合もある。	接触	主に2週～7週		
伝染性膿痂疹（とびひ）		紅斑を伴う水疱や膿疱が破れて、かさぶたをつくる。かゆみを伴うことがある。	接触	2～10日 長期の場合もある			

◎ 出席停止期間については、病状により医師が感染のおそれがないと認めたときは、上記の限りではありません。